

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」 放課後子供教室の取組事例

## 「釜石市放課後子供教室 ～ 地域の中で学び育つ居場所づくり ～」（岩手県釜石市）

### 取組の概要や経緯

東日本大震災被災地として遊び場が少なくなっている状況も踏まえながら、地域の中で子どもたちが心豊かに学び育つ環境づくりを目的に、仮設住宅や学校内施設、公民館等を会場に放課後子供教室を実施している。※市内6教室(7小学校区)

### 内容

教室のコーディネーターや地域住民等からなる活動協力者(安全管理員・学習サポーター)が、子どもたちの自主的な活動の安全に配慮し見守るとともに、地域における学びの機会として、工作やスポーツ、料理等、多様な体験学習機会を提供している。

また、これまで仮設住宅で開設していた一部の教室では、集約に伴い新たな会場(恒久的施設)で実施しており、**地域コミュニティ再編時期ならではの課題はありながらも、子どもたちと地域住民が集い交流する場として、復興促進の一役を担っている。**



### ポイント

- ① 子どもや保護者等に「放課後子供教室通信」を配付し、イベント時の参加の促しや情報の共有を図っている。
- ② 活動協力者の研鑽や各教室の状況等の情報交流機会として市内で研修会を開催。(県内陸部での研修会には参加が難しい状況であることから。)
- ③ 仮設住宅の集約に伴い会場を変更した教室では、実質的に新規での立上げの状況であったが、**地域の民生主任児童委員を介することにより、多くの活動協力者が募**るなど順調に事が運べた。



### 成果

次のとおり、前年度と比較し、教室1回あたりの子どもの参加人数や活動協力者数は増(11月末現在)となっており、子どもと地域を結び、地域の中で学び育つ場としての理解浸透が図られている。

○1回あたりの子どもの参加者数 : 12.8人 (H28:10.9人)

○地域住民等の活動協力者数(実数): 44人 (H28:32人)

### 今後の方向性

これまでの成果を生かしながらも、各教室単位では種々の課題がある状況も踏まえ、継続安定的な実施の確立を目指し進めていく。また、仮設住宅を会場とする教室では、今後の地域コミュニティの再編状況にも留意し中長期的視点を持ちながら実施する。